

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200041		
法人名	社会福祉法人 真寿会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム真寿苑		
所在地	田辺市新庄町内之浦3165-1		
自己評価作成日	平成22年4月16日	評価結果市町村受理日	平成22年6月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092200041&amp;SCD=320">http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092200041&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成22年5月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・外の空気を吸っていただける機会を多く取り入れ、本人の希望は即対応する様に努めています。</li> <li>・医療との連携体制があり、本人や家族が安心して過ごせる様に支援しています。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>玄関には、理念である「利用者の人権を尊重し、優しく、思いやりのある介護を実践します。地域密着型サービスの発展に尽力し、地域に根ざした総合的福祉サービスを提供します。地域社会の皆様との良き相談相手となれるようにつとめます。」を掲げており、管理者、職員共にケアから積極的な取り組みが伺える。家族との信頼関係も構築され様々な要望にも対応している。法人の医療施設も整備されおり、法人全体のバックアップ体制もあり、利用者・家族に安心感のある事業所である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	e,it外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の人権を尊重しやさしく思いやりのある介護を行い、地域に根ざした福祉サービスの提供を理念として掲げて、実践できるように努めている。	利用者の人権を尊重し、優しく、思いやりのある介護の実践、地域密着型サービスの発展に尽力し、地域に根ざした総合的福祉サービスの提供、地域の良き相談相手を理念と掲げ、お互いに意義を確認しながら日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に人家なく日常的交流ないが、散歩や地域の行事に参加させて頂き、ふれあいの機会を持つようにしている。花の苗など頂くようになった。	近隣には住宅が少ないが散歩や近くの小学校の運動会へ参加するなど機会を持つようにし、地域の一員として交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談や見学、又電話での問い合わせに対応している。 (法人の運営推進会議に於て)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の状況を報告すると共に、地域行事の情報を頂き、参加出来るものには参加させて頂いている。又、火事や災害時の協力をお願いしている。	法人全体で2ヶ月に1回開催している。施設の現状を報告し、地域の参加者から意見や行事などの情報を頂き、参加可能な行事には参加する等、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話でのサービス状況の問い合わせなど受けたり、必要時の相談、アドバイスを受けている。	主に電話でサービス状況の問い合わせを受けたり、必要のある時は相談したりして、協力関係を構築するように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は具体例をあげて理解し、拘束しないケアを徹底を話し合い取り組んでいる。玄関はAM9:00～16:30は施錠していない。	玄関は施錠していない。職員は身体拘束をしないケアを理解し取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修を受けており、見逃すことない様に、お互い相談や報告できる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	e,it外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の研修は参加しているが、今のところ活用の必要な利用者様はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には十分な説明を行い、不安や疑問をよく聞き、納得して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には月1回の自治会を開き、生活の中で不安、不満、要望を聞いた上で生活の中に反映させる様にしている。	月1回自治会を開催し、生活全般の要望等を聞く機会を設けそれらに対応している。また嗜好調査を実施し、生活の向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月初めに会議を開き、意見や提案、改善点などを話し合い日頃の仕事に反映させる様にしている。	利用者個々の日常の様子を記録し、月の初日に開催するライフサポート会議で話し合いを行っている。なお都合で出席できなかった職員には確認のサインを求め、ケアの統一を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握に努め、労働時間に関して本人の希望を出来る限り考慮した勤務体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人や外部の研修案内は回覧し、勤務時間に考慮し、研修は出来る限り受ける様に勧めている。又、介護技術に関しては、都度解決する様にその場での指導を心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は今のところない。外部研修参加時には、情報の交換程度にとどまっている。		

自己	外部	項目	自己評価	e,it外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約に至る迄、本人や家族の話を聞く機会を設け、見学して頂き、環境が変わっても以前と同じ様な生活が続けられる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には今迄の暮らしぶりなど良く伺ったうえ、不安をなくし、要望など取り入れた生活を継続し、生活ぶりを初期には細かくお知らせしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスをよく聞いたうえで、他のサービスが必要な時には紹介なども行う様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	以前の仕事や得意とされている事など、人生の先輩として教えて頂ける事の指導をお願いし一緒に学べる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活における本人様の様子など、2ヶ月毎に手紙と写真で報告すると共に、来苑時や随時の変化はすぐに電話報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来苑時は歓迎すると共に、ゆっくりくつろいで頂ける様に配慮している。又、希望時にはいつでも連絡を取れる様にしている。	地元の方が利用されているので、機会があるごと周辺を散歩し関係が途切れないよう支援している。また、馴染みの人が訪問されたときは歓迎しゆっくりできるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大テーブル2つから小テーブル6つを購入し交換、利用者様同士の性格など考慮して、良い関係作りに支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	e,it外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方を訪問したり、経過を伺う事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	亡くなられた家族の写真や遺灰を居室に置き、朝、夕のお茶やご飯を供え花を絶やさないようにしている。	利用者の思いを大切に、利用者が対応できなくなってしまった場合は、代わりに職員が対応する等支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族で使用されていたタンスなど馴染みの物を持ってきて頂き、使用する様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝9時、夕方16時のバイタルチェックや入浴前後の測定又、必要時には主治医へ報告、指示を受ける様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前には、本人家族に説明、了解の上、計画書を作成し、無理のない計画書の作成に心掛けている。	利用者家族に説明すると共に、月初めに開催されるライフサポート会議で利用者個々について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月初めに行うサポート会議に於いて、日常の気づき等を話し合い見直しや計画の変更を柔軟に行い、ケアに生かせる様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や遠方の方が入院された折、洗濯物の引き取り、届けを支援し、面会を多くした。		

自己	外部	項目	自己評価	e,it外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	場所柄散歩できる場所(公園、海岸)が多くあり、短時間でも外の空気を吸う機会を持つ様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎の往診、随時の電話相談又、必要時は他の医療機関への紹介状など頂いた上での受診支援をしている。	法人から2週間ごとの往診があり、本人および家族から安心と信頼を得ている。必要な時は他の医療機関への受診を行うなど適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護があり、相談を行い、主治医への報告連携により適切な指示を頂き、支援につないでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院からのアドバイスなども受け、退院後のケアについての指導を受けたりする事もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度が重度になりつつある利用者様には、家族様と今後の支援について相談させて頂き、意向をよく伺って支援させて頂いている。	利用時に、本人・家族と話し合いを行っており、法人の施設との連携を密にして、いつでも対応できる支援体制が構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が参加し救命講習を受けた、又、AEDの取り扱いについても習った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行い、消防の指導も受けている。又、地域の協力も自治会長様を通じてお願いしている。	消防署立会いで年2回避難訓練を実施しており、特に夜間の災害時には常に管理者・職員共に話し合いを行っている。	災害時は地域の人の協力が必要不可欠のため、地域との連携協力体制の検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	e,it外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はプライバシーの重要性を認識しており、排泄時、失敗時や着替え、トイレ使用時のさりげない対応、他者にも知られない配慮をしている。	管理者・職員は理念のもとに利用者の尊厳について理解しており、その人の誇りやプライバシーを損なわない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々生活では、本人が決定出来る事に関しては、決定してもらえる様な言葉掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせての支援(散歩、居室、ホールでの過ごし方等)を行い、本人の意志を優先させている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	約1ヶ月、1度の美容師の来苑による散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る時には、食前食後のテーブル拭きやおしぼりたたみなどのお手伝いをお願いしている。	食事は職員が作っているが、食事が楽しみなものになるよう嗜好調査を行っている。また、テーブル拭きやおしぼりたたみなどを手伝えることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士により、献立を参考に食事作りを行い、水分量を把握し、個人に応じた水分の勧めを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、クルリーナブラシを使用したり、モンダミンを使用など個々に応じて使用、必要時には歯科受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	e,it外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、日中はトイレ指導を行い、時間的排泄を促している。紙パンツからトレーニングパンツに変更を試みて様子みた。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録しトイレ誘導を行う等、利用者の力量に合わせた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄記録より便通薬やナース、訪問看護による浣腸を行い排便を促す様な食材利用や水分補給にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月、火、木、金のうち週2回の入浴を実施している。希望者は重ねて入浴し、必要時は(排便の失敗)随時に実施している。	週2回の入浴を実施している。季節感を味わってもらえるよう時期により菖蒲湯や職員が持ちよったゆずで香りの入浴を行う等入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後パジャマに更衣後は個々に自由時間の後就寝となる。夜間のみポータブルトイレ設置、紙パンツ、紙オムツなど必要に応じて対応し、安心して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の大切さを職員は理解しており、薬の管理を服薬介助は特に注意し、確実にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の下ごしらえ、おしぼりやタオルたたみ、テーブル拭きなど、又、散歩で摘んできた野の花などを居室に飾ったりすることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を考慮しながら、天気の日には短時間でも散歩が日常的になる様に支援している。又桜見などにはおやつを持っていくこともある。	天候や体調を見ながら散歩等支援している。また年2~3回近くの公園に弁当持参で出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	e,it外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛ける時は、預かり金よりお金を渡して、個々に買い物をする。日常生活の中では金銭管理は出来ず、預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話を継ぐ事がある。携帯電話を持っている方もいる。手紙のやり取りはないが年賀状はある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り手作りの物を飾るようにしている。季節を感じられるように生花を飾る様にし、換気に注意し小まめにエアコンの調節をするようにしている。	花や手作り品を飾るなど居心地の良いよう工夫している。採光等適度にあり、音楽の音量も大きくなり、不快感を感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大テーブルより小テーブル6つを購入。その時々合った組み合わせが出来る様に改善し効果を発揮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスを持参されている。又、家具の配置は本人と相談し使い易い様にしている。	居室には馴染みのタンスを持参している。またリサイクル商品をうまく活用し居心地よく過ごせる工夫があり、安心感が得られるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を間違える方について目印となる物を置き、言葉掛けで、自室が分かる様にし、本人や家族様了解の上、大きく名前を記入し、納得し入れる様にしている。		